

特集 1

都市における災害・公害の防除に関する 第1次臨時事業の終結に当って

——委員会幹事の立場から——

Concluding Remark on the Achievements of the 3 year's Special Project on the Defense System of Urbane Functions Against Environmental Disturbances

川 井 忠 彦*

Tadahiko KAWAI

昭和 46 年度から開始された本臨時事業も本年 3 月で一応のピリオドを打たれ、その成果のとりまとめが現在行なわれているが、3 年間の歳月が文字通り矢の如く過ぎたという印象を事業の運営業務の一端を引受けている著者ですら抱いている。したがって研究を実際に担当されている方々にとって、その実感はひとしおであろうと想像する。すでにある程度研究の基礎の固まっているグループでは成果を取りまとめるに当ってその資料には事かかないであろうが、本事業で全く新しく開始された研究については研究活動の中心がどうしても昨年度（第二年度）におかれたことはやむをえないことであると思われる。したがって、本年度の特集号は総合報告の立場でできるだけまとめ上げた第 3 年度報告であることをあらかじめお断わりしておきたい。そして本年度から新しくスタートした第 2 次事業を含めて、再び臨時事業の特集号が来年また同じ時期に計画されるであろうが、その中に第 1 次事業の継続研究成果がかなり織り込まれるものと思っている。

過去 3 年間の本事業をふり返ってみて研究の進捗状況に若干の差があるが、いずれのグループも大体あらかじめ予定した計画通り研究を進めてきたといえるであろう。特に第 1 グループの多彩な研究成果は迫りくる大地

震の防災計画の立案に幾多の貴重なデータを提供している。第 2 グループの都市交通制御に関する理論的、実験的研究の成果はすでに高い評価を得ており、交通騒音問題に関する論議が喧しい現在特に注目されている。

第 3 グループはプラスチック廃棄物の処理という都市環境問題のなかでも最も典型的でしかも解決の困難な問題に積極的に取り組み、既にいくつかの重要な成果を得ているが、今後 1, 2 年の間に更に多くの成果があげられるものと期待されている。

第 1 次計画当初計画されたシステムグループの研究活動は第 2 次事業に移行した形で第 6 グループの研究の中に織り込まれることになった。

いずれにしても本事業のとりまとめに過去 3 年間関係してきた著者として思うことは、この種の研究は既成の学問体系の枠内では誠に取り扱いにくい境界領域 (interdisciplinary area) の学問分野であり、政治、経済などの文化科学や医学、生物学などの生命科学や、計画や政策の科学であるシステム科学などの複雑に関連する分野である。それだけに本臨時事業を本所で取り上げた意義があると思われ、第 1 次事業の貴重な成果を基に第 2 次事業の発展のために、一層の全所的結束をお願いしたい。
(1974 年 8 月 23 日受理)

* 東京大学生産技術研究所 第 2 部